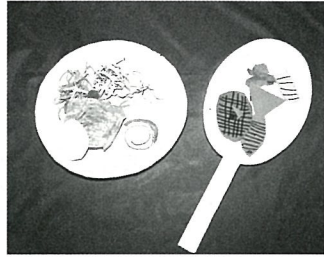




1年 鈴木 祥太くん

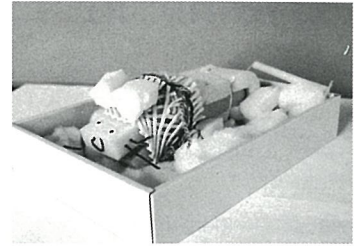


『かわったよ』

※帽子をかぶって、フライパンを持ってコツクさんにへんしくん。お料理もおいしそうにできるよ。



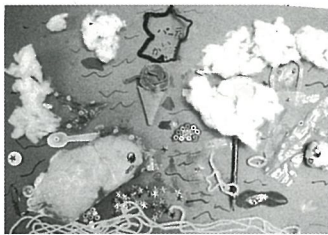
2年 若梅 聖也くん



『ライオン』

※耳をつけるのがむずかしかったけどスポンジを使ってじょうずに作れました。

あつまれ みんなの力作

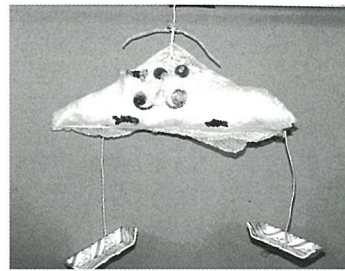


『魚たちのパーティ』



3年 石田 雅弥くん

※わたを使って、魚を立体的に表現しました。身の回りの材料を使って工夫しました。



『おしゃれおじさん』



4年 土屋 愛理さん

※ハンガーと綿を使って、体を作り、足をはり金で作りのゆかいなおじさんのでき上がり。



5年 鈴木 祐くん

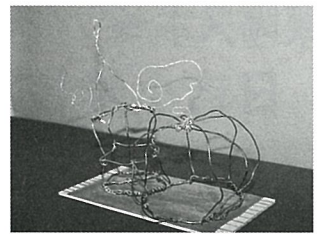


『小物入れ』

※初めて針と糸を使って、くわがたの形をした小物入れを作りました。足をつけるのが難しかったです。



6年 若澤沙登美さん



『冠カボチャと小物入れ』

※小物入れに羽をつけて、明るく見えるように工夫してみました。



ひかり歌壇

土屋 好(虫生)

ひたすらに農の道を歩み来て古希半ばにて鋤を離せず

農ひとすじに生きてきた作者、今だに鋤を手離せない

藤代 敏子(宮内)

梅雨明けて水色の空和らげど天災受けし人等如何にと

梅雨があけて晴ればれとした空になつたが災害を受けた人々が笑じられる

越川 義則(二又)

冷やむぎに大葉茗荷を揃えたる妻の手ぎわに美味のしあわせ

奥さんの手料理に満足感じっぱいである

鈴木 益郎(原方)

大腸癌精密検査で結果待ち異常無しにてホット一息

だれもが経験する結果待ちの不安な気持

安田 和子(作間内)

震度六宮城北部の天災は人ごとならずわが身ひきしむ

予測のつかない天災に自分を備える

評者詠 鈴木甲子幸

父の曳くりヤカーに乗りて通院の一年生の遠き日を戀ふ